

二世豊竹古靱大夫床年譜 (十二)

(轉載不許)

年次	劇場並に狂言	古靱大夫に關する記事	淨瑠璃界一般
大正九年(四十三歳) 一月二日初日 (三十一日間)	前 菅原傳授手習鑑 文樂座 切 壇浦兜軍記 琴寶之段迄	役場 (初役)三之切、訴訟之段 (切半分) 三味線 三世鶴澤清六 (初役)琴寶之段切 三味線 三曲 鶴澤清六 ツレ 野澤淺造 三曲 鶴澤清六	第一回巡業隊伊達大夫一座歸阪、出勤す。 今春早々インフルエンザ猖獗を極む 一月九日、世界大戦講和條約成立。
二月十日初日 (三十日間)	前 加賀見山舊錦繪 同座 中 攝州合邦辻 合邦住家之段 切 明烏六花曙 浦里雪貴之段より迄	役場 (初役)鶴ヶ岡草履打之段 三味線 三世鶴澤清六	英大夫、七世豊竹島大夫名跡を相繼す。 第二回巡業隊出發す。一座は、津大 夫、友次郎、鑑大夫、徳太郎、靜大 夫、芳之助、常子大夫、津花大夫、 清大、津駒大夫、友平、友衛門、 宗吉。
三月二十日初日 (三十二日間)	前 彦山權現誓助劍 大序より 中 玉藻前旭秋 右大臣道春館之段 切 新版歌祭文 野崎村より 油屋之段迄	役場 (初役)油屋之段切 三味線 三世鶴澤清六	
五月一日初日 (三十日間)	前 伊賀越 同座 岡崎之段迄	役場 (二度目)岡崎之段次(相合傘) 三味線 三世鶴澤清六	越代大夫、三世竹本相生大夫を襲名 第二回巡業隊歸阪富興行より出勤す

年次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

六月二日

切壺坂靈驗記
土佐町之役より
御禮参り之段迄

第三回巡業隊出發

高岡路砂
高松山
高松寺
觀音
各劇場出演

伊達、古靱、彌一座
東京、新富座

同麻布南座

横濱横濱座

名流大演藝了
道頓堀中座

京都南座

神戸中央劇場

八月廿一日初日
(三日間)

八月廿七月初日
(四日間)

八月廿八月初日
(七日間)

七月廿四月初日
(五日間)

七月廿四月初日
(五日間)

七月廿四月初日
(五日間)

津大夫初日より病氣に付三日間、その役場沼津之役代役を勤む。途中より八十六大夫代役を勤む。この爲め、文樂座六月興行を休む。

一 座
古靱大夫、清六、彌大夫、吉彌、
鐵大夫、徳太郎、島大夫、淺造、
辰大夫、清一、彌須大夫、八造、
清大夫、宗吉

古靱大夫、清六出演

七月廿九日、六世鶴澤清七、本名前田庵之助、東京にて歿す。法名道覺、智圓信士、行年六十九。前名勝作、藝名綱造を名乗る。後四世勝右衛門を襲名、更に六世清七名跡を相續す。

第三回 巡業隊歸阪、當興行より出演す。

役場
（初役、淡路町龜屋内之段）
三味線 三世鶴澤清六

古韞大夫、清六、鋳大夫、吉作、
靜大夫、芳之助、島大夫、淺造、

古靺、清六、鍛大夫、吉作、
靜大夫、芳之助、島大夫、淺造、
つばめ大夫、辰大夫、越登大夫、
清一、兵市、清市、中村、郡

(つばめ大夫は徳島興行のみ出演)

役場 (二度目) 祇園一力之段
掛合 平右衛門

三味線六世里澤吉兵衛
(初段)堀川之段切
三味線三世鳥澤清六

鶴澤清六病氣にて二十三日より休演
叶替り役ツレ芳之助

十月十五日初日交樂座興行は十一月
十七日秋樂となり打揚後、
竹本越路大夫は例年の如く一座を率
ひて、金澤、富山、新潟及び東京新
富座へ巡業に出でた、新湯、直ちに歸阪
發病、四日目に入院せり。この爲め
大阪醫科大學に入院せり。此の爲め
翌十年文樂座初春興行を越路大夫は
休演す

一月廿九日、吉田玉五郎（本名中村善吉）歿す。法名釋淨善。

年次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

二月六日初日
(二十九日間)

前 義經千本櫻 文樂座
道行之段迄
切 新版歌祭文 野崎村より
道行迄

三月十三日初日
(二十四日間)

前 加賀見山舊錦繪 大序より
七ツ目迄
中 攝州合邦辻 合邦住家之段
切 戀娘昔八丈 才三勘當より
鈴ヶ森之段迄

四月十四日初日
(二十五日間)

妹背山婦女庭訓 同座
大序より
朝敵退治迄

役場 (初役) 渡海屋之段切
三味線 三世鶴澤清六
鶴澤清六引續き病氣の爲め叶替り役
を勤めたるも清六十三日より送り迄
二十日より段切迄を勤む番附にて
古靱大夫右の役を以て番附にて
三段目語りとなる。

役場 (二度目) 島井又助住家之段切
三味線 三世鶴澤清六

役場 (四度目) 山之段
三味線 久我之助
三味線 三世鶴澤清六
(三度目) 杉酒屋之段 清六
三味線 三世鶴澤清六

本興行より大序、序中の大夫、三味線及人形部の若手獎勵の爲め、序の前に開幕劇として掛合にて一段の語らしめ、前興行の加賀見山又助住家の段を出し物とす。この爲め大序及び序中も二分して出語りとなしたる爲め夫々熱演せり。
五月一日、古靱大夫、新町宅より住吉に轉宅す

津國大夫、生駒大夫と改名。
二月十日、午前六時八世竹本むら大
朝風呂に赴き卒中となり。九日な
朝名法名龜譽鶴峯信士、行年七十九
二月廿八日午後四時頃、於本攝津大
條妻女高子土佐堀本宅に於て歿す。
法名慈曉院殿雙林高應大姉、行年八
十六。

五月五日三世豐澤團平(本名植畑九
市)東京にて歿す。法名慈普院釋圓
門人土居行年六十三。清水町源吉
二世仙左衛門を襲名、更に三世團平
名跡を相續す。更に三世團平
團平名跡の初世は、元祖豐澤廣助の
門人にて、初名を吉松と呼び後團平
化元年九月、仙左衛門と改名、文政
八年師名廣助名跡二世を相續せり。
二世は清水町の師匠襲名せしものな
り。